

3/16 読売

全国表彰 県内から2人

医療功労賞

長年の献身的な地域医療への貢献をたたえる「第43回医療功労賞」(読売新聞社主催、厚生労働省、日本テレビ放送網後援、エーザイ協賛)の全国表彰者が決まった。県関係では、海外部門でアフリカ南部のザンビアで巡回診療を続ける医師の山元香代子さん(59)、国内部門で日南市の松田整形外科医院リハビリテーション科長で理学療法士の福嶋照夫さん(56)が選ばれた。表彰式は20日に東京で開かれる。

途上国の力になりたい

海外部門
医師

山元香代子さん 59



受賞を喜ぶ山元さん

2011年からアフリカ・ザンビアの農村部で無償の巡回診療に取り組んでいる。「マフリアなど、ザン

ビアの医療課題の解決につながるような活動を続けたい」と意気込みを語る。

都城市出身。中学生の時にシユバイツァー博士の伝記を読んで医師になることを決意。宮崎大宮高から自治医科大に進み、県内の山間部で勤務した。「発展途上国の力になりたい」と、03年から国際協力機構(JICA)の専門家として計4年間、フィリピンとザンビアに赴いた。

ザンビアなどアフリカの多くの国では、施設整備の遅れが目についた。「施設をつくるには費用がかかる。それなら自分が回ればいい」と活動を始めた。

ザンビアでは首都ルサカに拠点を置き、助産師などを含むチーム5人で、4輪駆動車で地方を回る。マリアの予防や家族計画への助言など、診療の幅は広い。153月と759月は鹿児島県曾於市の病院に内科医として勤め、残りの半年間をザンビアにおける活動に充てている。昨年は43回の巡回診療で、約5000

人を診察した。NPO法人からの活動費、大学の同級生らが設立した支援する会からの賛助金があるものの、活動資金の多くは自費という。「現地スタッフは誇りを

リハビリ周囲の連携必要



患者の歩行訓練を手伝う福嶋さん

「持って取り組んでくれる。受賞は私一人の力ではなく、国内外で支援してくれるみんなのおかげ」と語る。(三股町)

「地域の人が支えてくれたおかげ」と笑顔を見せる。「リハビリは周囲の力を借りなければ成り立たない」と考え、保健師や看護師、介護福祉士との連携を常に心がけてきた。これまでの活動で、1993年に身体障害者用トイレの地図を作成したことが印象に残っている。理学療法士の仲間とともに日南、串間両市の公園や駅を100か所以上回り、写真入りの小冊子に仕上げた。旧南郷町(現・日南市)の議会で取り上げられ、町役場への設置につながったという。

医療や介護の現場では人材不足が問題になっていく。「リハビリを必要とする人はこれからも増え、理学療法士だけでカバーできない部分も出てくる。地域医療のために自分が出せることを考えていきたい」。4月から、看護師や介護福祉士を対象にリハビリの勉強会を開く予定だ。(日南市)

国内部門

理学療法士

福嶋照夫さん 56

30年前から日南、串間両市を拠点にリハビリ治療の普及に尽力してきた。県表彰に続いての全国表彰に、